インテグリティ遵守について

（一社）佐賀県バスケットボール協会Ｕ１２部会

平素は、当協会の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

Ｕ１２部会においてもリーグ戦の再開をはじめ徐々に通常の活動に戻りつつあり、一丸となってそれぞれの活動に取り組んでいるところです。

さて、標記の件につきまして、等Ｕ１２部会においても積極的に取り組んでいかなければならないと思っています。ＪＢＡが「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を提唱し、暴力暴言の根絶に取り組んできていることは皆様方にも周知されていることと存じます。しかし、わが県においてもコーチ等の不適切な言動による不祥事がまだまだ続いています。そこで、ここでは、主にコート外における「クリーンバスケット」について記述し、皆様方と共有していきたいと思っています。その中で、少しでも早く佐賀県に「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」が確立し、暴力暴言の根絶が迎えられることを願っています。

記

１．インテグリティとは。

インテグリティとは、**誠実、真摯、高潔**どの概念を意味する言葉です。正直さの実践と共に、高い道徳・倫理的な原則と価値観を持って一貫し、妥協なくそれらを遵守する振る舞いを指します。

２．なぜ今インテグリティが提唱されているのか。

まず、スポーツ界における不祥事　・指導者の問題（体罰行為、各種ハラスメント、etc）2012 年 12 月 **桜ノ宮高校バスケ部事件**・プレーヤーの問題（暴力行為、賭博行為、各種ハラスメント、etc）　・組織、役員の問題（協会組織のガバナンス問題、各種ハラスメント、etc）等がありました。しかし、現状は改善せず、幾多の事案が起きています。それを受け、その対 応 を JBA として JBA が掲げる【バスケで日本を元気に】の理念実現に向け、【インテグリティの精神（誠実さ、 真摯さ、高潔さ）】に基づき人間力・指導力・組織力を高め、バスケットボールの価値を高める ための指針決定および啓発活動を目的とし、提唱されています。

３．コート外における「クリーンバスケット」について

「クリーンバスケット」とは、ゲームにおけるものだけに限るものではありません。素晴らしいゲームはそれまでの素晴らしい実践から生まれるものです。ですから、チーム運営・コーチング等コート外のことも当然含まれます。

４．自チーム及び自らを振り返ってみましょう。

以下に挙げるものをチェックしてみてください。

（チーム運営について）

・チームに運営規約又はそれに代わるものがある。 □

・チームの会計は独立して存在する。 □

・会計処理は適切に行われ、会計報告が必ずある。 □

・チーム運営役員は、会員の意見をくみ取り適切に業務を執行している。 □

・定期的に総会が行われ、自由に意見交換が行われている。 □

・コーチと保護者とは適切な関係を保っている。その関係は偏っていない。 □

・カップ戦等の開催はチームの総意の元行われ、適切な会計報告がなされている。 □

（コーチングについて）

・練習時間は、開始時間・一回の練習時間ともにＵ１２として適切なものである。 □

・１週間に３日以上の休みが必ずある。 □

・練習メニューはコーチの監督の元、Ｕ１２として適切なものである。 □

・勝つことを第１に考えた指導ではなく、学び育てることを考えた指導である。 □

・試合や練習の成果を誰かの責任にしていない。 □

（例）キャプテンがしっかりしていないから、練習がだらしないんだ。

エースのお前が逃げてばかりだから、試合に勝てないんだ。

上級生がしっかりしないから、チームとしてだらしないんだ。等

＊上記のような発言をしていないか振り返ってみてください。

・威圧的な言動で指導される子どもたちを支配していない。 □

（例）挨拶にも来ないような子はゲームに出さないと放言する。

少しのミスや気の緩みも大声で注意する。

無意味とも思われる大声を出す。等

＊上記のような発言をしていないか振り返ってみてください。

・保護者との関係において、子どもの指導に差をつけていない。 □

・練習試合や大会等の参加は子どもたちの現状を十分考慮した上で行っている。 □

（指導者として）

・常に学ぶ意欲を持っている。 □

・常に自分の言動を振り返り、自制している。 □

・自チームのことばかりではなく、広い視野で考え行動している。 □

最後に

・指導者、選手保護者が互いに日頃より尊重し合い、互いにリスペクトしている。 □

＊一つでも当てはまることがあるようでしたら、今日から行動を変えていきましょう。

５．その他

過日、アンダーカテゴリーチームの方より愛知県協会へ問い合わせがあったそうです。（以下引用）

> （当該カテゴリー会合）で、コーチの振る舞いもテクニカルファウルの対象となるという事に触れ、（当該カテゴリー）の関係者かつ指導者の方の発言に対して『これっていいのですか？』という問い合わせでした。 その発言内容は、概ね下に記述した内容です。
>
> ◍ このテクニカルファウルは、ベンチテクニカルだからサインをしたコーチに課せられる。
>
> ◍ 保護者にＥ級を取らせて、保護者にサインさせてコーチとしてベンチに座らせ、実質的にベンチで指示ができるアシスタントコーチとして自身はベンチインすれば、（自身の）振る舞いがテクニカルを取られても（仮の）コーチが退場していくだけで、あまり影響がない。
>
> ◍ ルール上問題ない。

これはルール上問題があるなし以前の事です。コーチライセンスの階級にかかわらず、子どもたちにバスケットボール技能はもちろん、努力や協力することの大切さ、フェアープレー精神など人間性を育む立場である アンダーカテゴリーの指導者として、これが本心であるならば、決して認めることはできません。 多くの指導者の方は、JBA が推進しているインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）教育を理解していた だけると思います。

私たちはインテグリティを保つ必要があります。この意識を高めなければ、バスケットボールの魅力が損なわれてしまいます。それは、バスケットボール競技だけではなく、部活動顧問スポーツ指導者の体罰や暴言がマスコミ等で取り上げられる度に誰もが実感してきました。バスケットボールにかかわる一人一人が意識を 高め、注意していかなければなりません。

特に、アンダーカテゴリー指導者の方は、自らも学ぶ姿勢を忘れず、本主旨をご理解の上、今後も子どもたちへのバスケットボール指導にご尽力いただきますよう、お願いいたします。（以上　愛知県協会の見解）

上記のような考えを持つ指導者が佐賀県にいるとは思っていませんが、杞憂とは思いながらも引用させていただきました。くれぐれも平素の指導の中から、JBA が推進しているインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）教育を理解し実践していただきますようよろしくお願いいたします。